

科目名	演奏特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					

授業目的と到達目標
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から1～2曲、ロマン派以降の協奏曲から1～2曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。
授業概要
対面授業にて実施する。当面は演奏する学生1名と教員のみ同室にて行い、他の学生は別室にて聴講する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ2台形式で学ぶ。
受講上の注意
各々が研究する楽曲の分析、練習。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業に取り組む姿勢	60%
テスト	40%

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2台ピアノ譜		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。
教員実務経験
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	1年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
3	各々が選曲した楽曲の1楽章
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章 仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	全楽章の復習、仕上げ
14	指揮者の視点から協奏曲を考察する。 指揮に合わせて2台ピアノで演奏する。
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の1楽章
18	1楽章の続き
19	1楽章 カデンツを加えて
20	1楽章の仕上げ
21	2楽章
22	2楽章の続き
23	2楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き
26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
28	全楽章の復習、仕上げ
29	指揮者の視点から協奏曲を考察する。 指揮に合わせて2台ピアノで演奏する。
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究Ⅰ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	今川 裕代				
クラス名					

授業目的と到達目標
ピアノ協奏曲の起源と歴史を知り、主だった協奏曲を時代順に研究する。 ウィーン古典派の協奏曲から1～2曲、ロマン派以降の協奏曲から1～2曲学び、オーケストラと楽曲を奏する際に必要な分析力や技術を養い、レパートリーとなるよう仕上げる。
授業概要
対面授業にて実施する。当面は演奏する学生1名と教員のみ同室にて行い、他の学生は別室にて聴講する。 協奏曲を演奏する際の表現方法、音の響かせ方を体得し、オーケストラや指揮者との息の合わせ方をピアノ2台形式で学ぶ。
受講上の注意
各々が研究する楽曲の分析、練習。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業に取り組む姿勢	60%
テスト	40%

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	各々が研究する楽曲のオーケストラスコア譜、2台ピアノ譜		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
出席回数が全授業回数の3分の2以上に達しない場合は単位を付与しない。
教員実務経験
オーケストラとの豊富な共演経験を踏まえ、技術的問題、楽曲解釈における問題を討議、指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	1年間の授業計画の説明。 協奏曲の起源を知り、様々な協奏曲を時代順に調べ、前期と後期に研究する楽曲を選び、3回目の授業までに譜読みをする。
2	前期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
3	各々が選曲した楽曲の1楽章
4	1楽章の続き
5	1楽章 カデンツを加えて
6	1楽章の仕上げ
7	2楽章
8	2楽章 仕上げ
9	終楽章
10	終楽章の続き
11	終楽章の仕上げ
12	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
13	全楽章の復習、仕上げ
14	指揮者の視点から協奏曲を考察する。 指揮に合わせて2台ピアノで演奏する。
15	全楽章の仕上げとテスト
16	ロマン派以降の協奏曲について 後期に研究する楽曲の背景、作曲家について調べる。
17	各々が選曲した楽曲の1楽章
18	1楽章の続き
19	1楽章 カデンツを加えて
20	1楽章の仕上げ
21	2楽章
22	2楽章の続き
23	2楽章の仕上げ
24	終楽章
25	終楽章の続き
26	終楽章の仕上げ
27	選曲した楽曲のCD及びDVD鑑賞
28	全楽章の復習、仕上げ
29	指揮者の視点から協奏曲を考察する。 指揮に合わせて2台ピアノで演奏する。
30	全楽章の仕上げとテスト

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之				
クラス名					

授業目的と到達目標
取り上げた楽曲の詳細な分析、作曲家の時代背景、作曲の経緯などや、それに伴った演奏スタイルを研究し、より深く掘り下げ徹底した研究をすることを通じて、演奏家として必要である豊富な知識を身に付け、実際の演奏に役立てるようになることを目的とする。
授業概要
対面授業 ・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。 ・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。 ・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。 ・ＣＤ、ＤＶＤ等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。 ・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。
受講上の注意
研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。 次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。 ※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては研究で取り上げる曲を減らすことがある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講姿勢、課題の達成状況など）	50％
研究レポート・プレゼンテーションの内容	50％

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス（方針説明、成績評価方法の説明等） 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートやPower Pointなどを用いた研究発表の準備と楽曲の練習（標準8時間）] ● 第2回 作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第4回 取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第5回 取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第6回 取り組む楽曲の分析④ 各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第7回 研究成果の演奏発表 録音・録画など 学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]

● 第8回

取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定

[第9回へ向けてのレポートやPower Pointなどを用いた研究発表の準備と楽曲の練習（標準8時間）]

● 第9回

作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック

[第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第10回

取り組む楽曲の分析①

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第11回

取り組む楽曲の分析②

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第12回

取り組む楽曲の分析③

調性・和声について

演奏実践

[第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第13回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第14回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第15回へ向けた分析の復習と振り返り・気づきをまとめる（標準2時間）]

● 第15回

まとめ、前期の総括、振り返り・気づきの発表など

今後の課題や練習上の留意点について

科目名	演奏特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	伊勢 敏之				
クラス名					

授業目的と到達目標
取り上げた楽曲の詳細な分析、作曲家の時代背景、作曲の経緯などや、それに伴った演奏スタイルを研究し、より深く掘り下げ徹底した研究をすることを通じて、演奏家として必要である豊富な知識を身に付け、実際の演奏に役立てるようになることを目的とする。
授業概要
対面授業 ・取り上げる楽曲を決め、楽曲や作曲家について研究してきたことをプレゼンテーションする。 ・楽曲分析をする。また分析のノウハウなどを学ぶ。 ・研究した成果を通じて、実際の演奏へと反映し、以前の演奏とどう変わったかを確認する。 ・ＣＤ、ＤＶＤ等の鑑賞を通じた秀逸な演奏の研究。 ・録音をし、自らの演奏を客観的にチェック。
受講上の注意
研究したい楽曲を決定し、教員や伴奏者の分など、必要に応じた楽譜を準備する。 次回までのやるべき課題を課すので、必ずやり遂げる。 ※受講者数、研究や練習状況の進捗、取り組み曲の規模などによっては 研究で取り上げる曲を減らすことがある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講姿勢、課題の達成状況など）	50％
研究レポート・プレゼンテーションの内容	50％

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
[第1回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ] ● 第1回 ガイダンス（方針説明、成績評価方法の説明等） 取り組む楽曲や研究課題の相談・決定 [第2回へ向けてのレポートやPower Pointなどを用いた研究発表の準備と楽曲の練習（標準8時間）] ● 第2回 作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック [第3回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第3回 取り組む楽曲の分析① 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第4回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第4回 取り組む楽曲の分析② 楽曲の構造、構成について 演奏実践 [第5回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第5回 取り組む楽曲の分析③ 調性・和声について 演奏実践 [第6回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第6回 取り組む楽曲の分析④ 各フレーズのデザイン、表情・表現について 演奏実践 [第7回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習（標準5時間）] ● 第7回 研究成果の演奏発表 録音・録画など 学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第8回へ向けて、取り組みたい候補楽曲のピックアップ]

● 第8回

取り組む楽曲や研究課題の相談・方針決定

[第9回へ向けてのレポートやPower Pointなどを用いた研究発表の準備と楽曲の練習（標準8時間）]

● 第9回

作曲家・作曲背景、作品そのものについての研究発表と学生どうしや教員によるフィードバック

[第10回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第10回

取り組む楽曲の分析①

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第11回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第11回

取り組む楽曲の分析②

楽曲の構造、構成について

演奏実践

[第12回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第12回

取り組む楽曲の分析③

調性・和声について

演奏実践

[第13回へ向けた分析の予習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第13回

取り組む楽曲の分析④

各フレーズのデザイン、表情・表現について

演奏実践

[第14回発表へ向けた分析の復習と楽曲の練習（標準5時間）]

● 第14回

研究成果の演奏発表 録音・録画など

学生どうしや教員によるフィードバック

今後の課題や練習上の留意点について

[第15回へ向けた分析の復習と振り返り・気づきをまとめる（標準2時間）]

● 第15回

まとめ、前期の総括、振り返り・気づきの発表など

今後の課題や練習上の留意点について

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	安田 紀子				
クラス名					

授業目的と到達目標
バロックから古典派、ロマン派及び近代、現代までの幅広い時代から選択した声楽作品を主軸として歌手とピアニストがそれぞれいかに共演者として関わるべきかを研究する。
授業概要
対面及び遠隔併用
講義はマスタークラスの形で行われ、各学生は声楽・ピアノ専攻生とも 6～8曲の課題が与えられる。声楽作品は国際発音記号を用いてより正確な発音を理解し表現を試みる。また演奏だけではなく作品の時代背景や作曲家たちの研究も行う。講義の最後には各自のプレゼンテーションとしてコンサート形式で演奏する。
受講上の注意
声楽専攻生は与えられた課題曲を辞書、対訳本などで意味を理解し講義の中で滞りなく演奏できるように準備すること。ピアノ専攻生は録音などで伴奏の部分のみならず声の旋律がどのような動きをしているかを理解しておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100％

教科書情報			
教科書 1	随時配布		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

講義約 1 ヶ月前に課題曲が提示され講義初日と二日目にクラス内で研究され最終日に研究発表を行う。

科目名	演奏特殊研究Ⅲ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	安田 紀子				
クラス名					

授業目的と到達目標
バロックから古典派、ロマン派及び近代、現代までの幅広い時代から選択した声楽作品を主軸として歌手とピアニストがそれぞれいかに共演者として関わるべきかを研究する。
授業概要
対面及び遠隔併用
講義はマスタークラスの形で行われ、各学生は声楽・ピアノ専攻生とも 6～8曲の課題が与えられる。声楽作品は国際発音記号を用いてより正確な発音を理解し表現を試みる。また演奏だけではなく作品の時代背景や作曲家たちの研究も行う。講義の最後には各自のプレゼンテーションとしてコンサート形式で演奏する。
受講上の注意
声楽専攻生は与えられた課題曲を辞書、対訳本などで意味を理解し講義の中で滞りなく演奏できるように準備すること。ピアノ専攻生は録音などで伴奏の部分のみならず声の旋律がどのような動きをしているかを理解しておくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100％

教科書情報			
教科書 1	随時配布		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	随時配布		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

講義約 1 ヶ月前に課題曲が提示され講義初日と二日目にクラス内で研究され最終日に研究発表を行う。

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	辻 浩二				
クラス名	前期：辻先生（火曜 2 限） 後期：栗山先生は集中講義です。				

授業目的と到達目標
歴史的な流れの中で、発展を遂げてきた演奏法について、様々な文献や映像を通じて研究していく。特に、音楽の発展で最も動きが大きかった17・18世紀における、楽器の発展・記譜法の進化・音楽を取り巻く社会の変化など、めざましい変遷について知っていく。そして、そのことを踏まえ、さらなる演奏能力の向上を目指す。
授業概要
「正しい楽譜の読み方」という資料を基に、記譜法についての変遷を知る。 この本には、（バッハからシューベルトまで）という副題があり、現在の記譜法との違いから、当時作曲家がどのような演奏を望んだのかを知っていく。 そのうえで、20世紀の作品の基礎となる音楽とのつながりを考え、自分の演奏に活かしていった欲しい。 さらに、「古楽とは何か」という本からも、合わせて当時の演奏法を知り、これまで知らなかったクラシック音楽の原点を見ていきたいと考える。
受講上の注意
映像や文献のみを一方的に勉強するだけでなく、お互いにディスカッションしながら表現方法などについても、積極的に議論をしていってほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出課題の評価及び平常点	100

教科書情報			
教科書 1	授業内で配布するハンドアウト		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	正しい楽譜の読み方 バッハからシューベルトまで		
出版社名	現代ギター社	著者名	大島富士子 著
参考書名 2	古楽とは何か		
出版社名	音楽の友社	著者名	ニコラウス・アーノンクール著 樋口隆一・許光俊 訳
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画
講義室での座学及び、音楽関連の映画・ドキュメンタリー映画等の鑑賞

科目名	演奏特殊研究Ⅳ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	栗山 和樹				
クラス名	後期：栗山先生は集中講義です。				

授業目的と到達目標
クラシック音楽演奏家であっても、演奏や教育の現場でポピュラー音楽を演奏する機会があるかと思います。このクラスでは、ポピュラー音楽の基礎を教養として学び、コード理論、ボイスিং、コンピング、アドリブの基礎と共にジャズ史を学び、ポピュラー音楽理論の基礎力を身に付けることを目標とします。
授業概要
遠隔授業 「ポピュラー音楽演奏の基礎」：ボサノバやジャズ・スタンダード・ナンバーを教材にメロディ・フェイクにはじまり、アドリブをトライしてみます。コード・ネームやスケールなどポピュラー音楽演奏に必要な基本事項を学び、コードやベースラインなど簡単なアレンジもトライしてみます。ジャズの歴史を俯瞰することにより、どうしてこのような技法ができたかを考えます。
受講上の注意
課題を必ず演習してみること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出課題の評価及び平常点	100

教科書情報			
教科書 1	授業内で配布するハンドアウト		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画
1日目 第1回授業「コードシンボル」 第2回「レフトハンド・ヴォイスिंगス」 第3回「フォー・ウェイ・クロース」 第4回「テンション①」 第5回 ZOOM オンラインによる質疑応答 2日目 第6回授業「テンション②」 第7回「テンション③と振り子ベース」 第8回「映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史①」 第9回「映画『ベニィ・グッドマン物語』で学ぶジャズの歴史②」 第10回 ZOOM オンラインによる質疑応答 3日目 第11回「レフトハンド・ヴォイスिंगスの演習」 第12回「マイナー・ケーデンスにおけるオルタード・テンション」 第13回「ヴォイスिंगの実例研究」 第14回「短調のヴォイスिंग」 第15回 ZOOM オンラインによる質疑応答

科目名	演奏特殊研究Ⅴ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					

授業目的と到達目標
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む
授業概要
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台で実践できる歌手を育てる。 対面授業
受講上の注意
各自が取り組む曲目のアナリゼ

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
総合評価	100

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

前期1年次：正しい呼吸法のもと、歌唱において必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。

前期2年次：個人のキャラクターに合わせたレパートリー作りをする。(ドラマ、スピント、リリコ、レッジエーロ等の分類)

後期1年次：オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。

後期2年次：ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、「真の舞台人」の育成を図る

対面授業

科目名	演奏特殊研究 V	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	水口 聡				
クラス名					

授業目的と到達目標
高度な歌唱技術を身につけ、豊かな音楽性を育む
授業概要
オペラ・アリアを古典から現代までの時代も越えたあらゆる作品を取り上げ、正しいテクニックに基づいた歌唱表現を舞台上で実践できる歌手を育てる。
受講上の注意
各自が取り組む曲目のアナリゼ

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

前期1年次：正しい呼吸法のもと、歌唱において必要な自然で豊かな声を出すことを目指す。

前期2年次：個人のキャラクターに合わせたレパートリー作りをする。(ドラマ、スピント、リリコ、レッジエーロ等の分類)

後期1年次：オペラ、それぞれにおける様式を習得し、それを表現に結び付ける。

後期2年次：ステージ上でのマナー、表情、表現等を体得し、「真の舞台人」の育成を図る

科目名	音楽学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	樋口 光治				
クラス名					

授業目的と到達目標
西洋音楽の主要な形式やジャンルについて解説する。
授業概要
当面の間ズームによる授業に変更します。ドイツ・リート、ロンド、ソナタ、オペラ、コンチェルト、グレゴリオ聖歌、中世・ルネサンスの声楽曲、シンフォニーなど、西洋音楽の主要な形式やジャンルを解説しながら、西洋音楽に固有の表現内容、表現方法を探究する。
受講上の注意
授業内容に基づいて自筆ノートを作成すること

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業態度、筆記試験	90
出席	10

教科書情報			
教科書 1	コピーを配布		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
3分の2以上の出席は必須。遅刻2回を欠席1回として計算する（3分の2の出席とは遅刻のない出席数とする）。
教員実務経験
実務経験なし

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ドイツ・リート1
2	ドイツ・リート2
3	ドイツ・リート3
4	ドイツ・リート4
5	ロンド形式1
6	ロンド形式2
7	ロンド形式3
8	ソナタの語源と歴史
9	ソナタの歴史1
10	ソナタの歴史2
11	古典派のソナタ形式
12	オペラ1
13	オペラ2
14	オペラ3
15	まとめとテスト
16	コンチェルトの語源と歴史
17	トリオ・ソナタと合奏協奏曲
18	バロック時代の独創協奏曲とリトルネッロ形式
19	古典派協奏曲
20	グレゴリオ聖歌1
21	グレゴリオ聖歌2
22	グレゴリオ聖歌の声楽様式
23	中世のオルガヌム
24	中世のモテット
25	ルネサンスのモテット
26	ルネサンスの声楽様式
27	バロック時代の管弦楽曲
28	古典派交響曲
29	ロマン派交響曲
30	まとめとテスト

科目名	音楽学作品研究	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	樋口 光治				
クラス名					

授業目的と到達目標
西洋音楽の主要な形式やジャンルについて解説する。
授業概要
対面授業。ドイツ・リート、ロンド、ソナタ、オペラ、コンチェルト、グレゴリオ聖歌中世・ルネサンスの声楽曲、シンフォニーなど、西洋音楽の主要な形式やジャンルを解説しながら、西洋音楽に固有の表現内容、表現方法を探る。
受講上の注意
授業内容に基づいて自筆ノートを作成すること

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業態度、筆記試験	90
出席	10

教科書情報			
教科書 1	コピーを配布		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
3分の2以上の出席は必須。遅刻2回を欠席1回として計算する（3分の2の出席とは遅刻のない出席数とする）。
教員実務経験
実務経験なし

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	ドイツ・リート1
2	ドイツ・リート2
3	ドイツ・リート3
4	ドイツ・リート4
5	ロンド形式1
6	ロンド形式2
7	ロンド形式3
8	ソナタの語源と歴史
9	ソナタの歴史1
10	ソナタの歴史2
11	古典派のソナタ形式
12	オペラ1
13	オペラ2
14	オペラ3
15	まとめとテスト
16	コンチェルトの語源と歴史
17	トリオ・ソナタと合奏協奏曲
18	バロック時代の独創協奏曲とリトルネッロ形式
19	古典派協奏曲
20	グレゴリオ聖歌1
21	グレゴリオ聖歌2
22	グレゴリオ聖歌の声楽様式
23	中世のオルガヌム
24	中世のモテット
25	ルネサンスのモテット
26	ルネサンスの声楽様式
27	バロック時代の管弦楽曲
28	古典派交響曲
29	ロマン派交響曲
30	まとめとテスト

科目名	音楽学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期 「音楽と宗教」というテーマで、音楽と宗教との関わりについて考える。 後期 「20世紀ロシア、ソヴィエトの音楽」というテーマのもと、ロシア音楽の特質を、20世紀を中心に考える。
授業概要
対面授業 前期 宗教においては、しばしば音楽が重視される。音楽がどのように宗教で使われるかということを踏まえた上で、なぜ宗教と結び付くかという視点から、音楽の特質を考察する。 後期 20世紀のロシア、ソヴィエトでは、ヨーロッパの他の地域と同様、音楽の大きな変化があり、また、この時代のロシア、ソヴィエトの音楽は、政治や戦争と関わりが強く、音楽の面だけでなく、政治について考える上でも興味深い。
受講上の注意
常に音楽の実感を持ちながら考えること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
期末レポート	100

教科書情報			
教科書 1	使用しない。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	キリスト教会の典礼の音楽
2	音楽の多声化と信仰との関係
3	音楽体験の性質と宗教
4	音楽が多声化した後の単旋律の宗教音楽
5	単旋律の音楽と多声音楽との宗教的意味
6	中世のオルガヌムと20世紀のミニマル・ミュージック
7	音楽として楽しめるミサ曲と宗教改革
8	仏教と音楽（1）
9	仏教と音楽（2）
10	仏教の音楽から着想を得た20世紀の音楽
11	イギリスの教会と音楽（1）
12	イギリスの教会と音楽（2）
13	宗教と関連する器楽
14	19、20世紀の宗教（的）音楽
15	死者のためのミサ曲（レクイエム）について
16	アレクサンドル・スクリャービンと神秘主義、象徴主義
17	スクリャービンとヴァーグナー
18	スクリャービンのピアノ音楽
19	総合芸術という考え方とスクリャービンの〈プロメテウス〉
20	イーゴリ・ストラヴィンスキーとネオナショナリズム
21	ストラヴィンスキーの音楽
22	ロシア音楽におけるモダニズム
23	セルゲイ・プロコフィエフ（1）
24	プロコフィエフ（2）
25	ロシア音楽の銀の時代
26	ロシア・アヴァンギャルド（ロスラヴェツ、モソロフなど）
27	ソヴィエト連邦の始まりと音楽
28	社会主義リアリズムと音楽
29	ドミトリー・ショスタコーヴィチ（1）オペラを中心として
30	ショスタコーヴィチ（2）交響曲を中心として

科目名	音楽学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	前川 陽郁				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期 「音楽と宗教」というテーマで、音楽と宗教との関わりについて考える。 後期 「20世紀ロシア、ソヴィエトの音楽」というテーマのもと、ロシア音楽の特質を、20世紀を中心に考える。
授業概要
対面授業 前期 宗教においては、しばしば音楽が重視される。音楽がどのように宗教で使われるかということを踏まえた上で、なぜ宗教と結び付くかという視点から、音楽の特質を考察する。 後期 20世紀のロシア、ソヴィエトでは、ヨーロッパの他の地域と同様、音楽の大きな変化があり、また、この時代のロシア、ソヴィエトの音楽は、政治や戦争と関わりが強く、音楽の面だけでなく、政治について考える上でも興味深い。
受講上の注意
常に音楽の実感を持ちながら考えること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
期末レポート	100

教科書情報			
教科書 1	使用しない。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業時に適宜紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	キリスト教会の典礼の音楽
2	音楽の多声化と信仰との関係
3	音楽体験の性質と宗教
4	音楽が多声化した後の単旋律の宗教音楽
5	単旋律の音楽と多声音楽との宗教的意味
6	中世のオルガヌムと20世紀のミニマル・ミュージック
7	音楽として楽しめるミサ曲と宗教改革
8	仏教と音楽（1）
9	仏教と音楽（2）
10	仏教の音楽から着想を得た20世紀の音楽
11	イギリスの教会と音楽（1）
12	イギリスの教会と音楽（2）
13	宗教と関連する器楽
14	19、20世紀の宗教（的）音楽
15	死者のためのミサ曲（レクイエム）について
16	アレクサンドル・スクリャービンと神秘主義、象徴主義
17	スクリャービンとヴァーグナー
18	スクリャービンのピアノ音楽
19	総合芸術という考え方とスクリャービンの〈プロメテウス〉
20	イーゴリ・ストラヴィンスキーとネオナショナリズム
21	ストラヴィンスキーの音楽
22	ロシア音楽におけるモダニズム
23	セルゲイ・プロコフィエフ（1）
24	プロコフィエフ（2）
25	ロシア音楽の銀の時代
26	ロシア・アヴァンギャルド（ロスラヴェツ、モソロフなど）
27	ソヴィエト連邦の始まりと音楽
28	社会主義リアリズムと音楽
29	ドミトリー・ショスタコーヴィチ（1）オペラを中心として
30	ショスタコーヴィチ（2）交響曲を中心として

科目名	音楽芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。
授業概要
・対面授業 ・音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。
受講上の注意
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

- ・第1回：音楽美学あるいは音楽哲学について、概略を述べる。
- ・第2～6回：音楽の根本である音とはいったいどのような存在者であるのかについて、換言すれば、音を音たらしめているのは何なのかについて、考察を加える。
- ・第7～14回：音の基盤を炙り出した後、その音の集まりが音楽となるために必要な要素は何なのかについて、考察を加える。
- ・第15回：まとめを行なう。

科目名	音楽芸術学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	田之頭 一知				
クラス名					

授業目的と到達目標
音楽を学問的に研究することの意義を明らかにすることを目的とし、音楽を論理的に考察し、それを文章化することを目標とする。
授業概要
・対面授業 ・音楽を音楽として扱うことが、音楽を学問的に研究する場合に必要な態度である。しかし、それはいったいどのようなことなのか。本講義では音楽学、なかんずく、音楽美学あるいは音楽哲学と呼ばれる学問領域に根差しつつ、音楽の本質あるいは原理的基盤に関して講義を進めてゆく。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
西洋において音楽は古来、学問的なものとみなされてきた。それが何を意味するのかを各自で考えてもらいたい。なお、授業計画に関しては、必要に応じて変更することがあるので、注意すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
総合評価	100

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	必要があれば、授業中に指示する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	導入：西洋の音楽思想の概略
2	西洋における音楽の捉え方を、古代ギリシアに関して検討する。
3	西洋における音楽の捉え方を、中世・ルネサンスに関して検討する。
4	西洋における音楽の捉え方を、中世・ルネサンスに関して検討する。
5	西洋における音楽の捉え方を、近世に関して検討する。
6	西洋における音楽の捉え方を、近代に関して検討する。
7	西洋における音楽の捉え方を、近代に関して検討する。
8	西洋における音楽の捉え方を、現代（20世紀）に関して検討する。
9	西洋における音楽の捉え方を、現代（20世紀）に関して検討する。
10	音楽美学・音楽哲学の諸問題①
11	音楽美学・音楽哲学の諸問題②
12	音楽美学・音楽哲学の諸問題③
13	音楽美学・音楽哲学の諸問題④
14	後期のまとめ
15	音楽藝術あるいはアートとしての音楽の展墓

科目名	音楽史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	樋口 光治				
クラス名					

授業目的と到達目標
西洋音楽の歴史とその理論を概観することによって、文化としての音楽の理解を深める。
授業概要
当面の間ズームによる授業に変更します。ヨーロッパの中世からロマン派時代にかけて作曲された作品を概観すると共に、それらの作品を生み出す背景となった当時の社会状況を、作品と関連させながら考察する。
受講上の注意
講義ノートを作成し、それに基づいて筆記試験に解答すること。3分の2以上の出席は必須。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
筆記試験、授業態度	90
出席	10

教科書情報			
教科書 1	必要に応じて授業中にコピーを配布。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	必要に応じてその都度授業中に指示。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
出席に関しては、本学の規定どおり3分の2を確保すること。遅刻は2分の1回の欠席として計算する。従って1回以上の遅刻を含む3分の2の出席では、単位を取得できないので注意をすること。
教員実務経験
実務経験なし。

授業計画

- 1、グレゴリオ聖歌とミサ曲1
- 2、グレゴリオ聖歌とミサ曲2
- 3、教会旋法
- 4、単旋律とポリフォニー
- 5、中世のオルガヌム
- 6、中世のモテット
- 7、15世紀イギリスの音楽
- 8、ブルゴーニュ楽派
- 9、フランドル楽派1
- 10、フランドル楽派2
- 11、16世紀後期のヨーロッパ音楽
- 12、マドリガーレ（ルネサンスからバロックへ）
- 13、ヴェネツィア楽派
- 14、パレストリーナ
- 15、まとめと筆記試験
- 16、バロック・オペラ1
- 17、バロック・オペラ2
- 18、バロック・オラトリオ
- 19、トリオ・ソナタ
- 20、合奏協奏曲
- 21、ヴィヴァルディと独創協奏曲
- 22、フランス・バロックの音楽1
- 23、フランス・バロックの音楽2
- 24、J.S.バッハ
- 25、ロココ様式
- 26、前古典派の音楽
- 27、古典派の音楽1
- 28、古典派の音楽2
- 29、ロマン派音楽
- 30、まとめと筆記試験

科目名	音楽史学特論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	樋口 光治				
クラス名					

授業目的と到達目標
西洋音楽の歴史とその理論を概観することによって、文化としての音楽の理解を深める。
授業概要
対面授業。ヨーロッパの中世からロマン派時代にかけて作曲された作品を概観すると共に、それらの作品を生み出す背景となった当時の社会状況を、作品と関連させながら考察する。
受講上の注意
講義ノートを作成し、それに基づいて筆記試験に解答すること。3分の2以上の出席は必須。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
筆記試験、授業態度	90
出席	10

教科書情報			
教科書 1	必要に応じて授業中にコピーを配布。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	必要に応じてその都度授業中に指示。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
出席に関しては、本学の規定どおり3分の2を確保すること。遅刻は2分の1回の欠席として計算する。従って1回以上の遅刻を含む3分の2の出席では、単位を取得できないので注意をすること。
教員実務経験
実務経験なし。

授業計画

- 1、グレゴリオ聖歌とミサ曲1
- 2、グレゴリオ聖歌とミサ曲2
- 3、教会旋法
- 4、単旋律とポリフォニー
- 5、中世のオルガヌム
- 6、中世のモテット
- 7、15世紀イギリスの音楽
- 8、ブルゴーニュ楽派
- 9、フランドル楽派1
- 10、フランドル楽派2
- 11、16世紀後期のヨーロッパ音楽
- 12、マドリガーレ（ルネサンスからバロックへ）
- 13、ヴェネツィア楽派
- 14、パレストリーナ
- 15、まとめと筆記試験
- 16、バロック・オペラ1
- 17、バロック・オペラ2
- 18、バロック・オラトリオ
- 19、トリオ・ソナタ
- 20、合奏協奏曲
- 21、ヴィヴァルディと独創協奏曲
- 22、フランス・バロックの音楽1
- 23、フランス・バロックの音楽2
- 24、J.S.バッハ
- 25、ロココ様式
- 26、前古典派の音楽
- 27、古典派の音楽1
- 28、古典派の音楽2
- 29、ロマン派音楽
- 30、まとめと筆記試験

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業と遠隔授業の併用で行っていく。 二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画

前 期

1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画

2回目 自主制作①

3回目 自主制作②

4回目 自主制作③

5回目 自主制作④

6回目 絵画研究①

7回目 自主制作⑤

8回目 自主制作⑥

9回目 自主制作⑦

10回目 絵画研究②

11回目 自主制作⑧

12回目 自主制作⑨

13回目 自主制作⑩

14回目 作家研究発表

15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業と遠隔授業の併用で行っていく。 二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画

前 期

1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画

2回目 自主制作①

3回目 自主制作②

4回目 自主制作③

5回目 自主制作④

6回目 絵画研究①

7回目 自主制作⑤

8回目 自主制作⑥

9回目 自主制作⑦

10回目 絵画研究②

11回目 自主制作⑧

12回目 自主制作⑨

13回目 自主制作⑩

14回目 作家研究発表

15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業とオンライン遠隔の実習時間を有効に使う、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意
絵画や美術に対して日頃から幅広い関心を持つことが期待される。遅刻や欠席をできる限り避け、持続的な制作に耐えられる体力と精神力が維持できるように努力する。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画

前 期

1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画

2回目 自主制作①

3回目 自主制作②

4回目 自主制作③

5回目 自主制作④

6回目 絵画研究①

7回目 自主制作⑤

8回目 自主制作⑥

9回目 自主制作⑦

10回目 絵画研究②

11回目 自主制作⑧

12回目 自主制作⑨

13回目 自主制作⑩

14回目 作家研究発表

15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【遠隔】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【対面】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験	
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【対面】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【遠隔】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【対面】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【遠隔】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	村居 正之				
クラス名					

授業目的と到達目標
精神・技法を土台に、絵画の創造・発展に向かい、個々の知識や感性を高め、それ沿った幅広い表現力を持ち、絵画表現の喜びを実感し、豊かな人間性を育むことを目的とする。
授業概要
対面授業 教官達との交流を通して、制作過程の知識や経験を学び、個々の絵画制作を通して、画論や画材の研究：技法の理解等を多く学習し、作家としての在り方を把握する。 後期博士課程では、論文の準備を早くからする。また、主査、副査とのミーティングを重ねる。個展、グループ展、団体展等に積極的に参加して、大作（100号以上）を数多く制作し、実力を備えた専門家の育成を目指す。これまでの作家活動を通して培った経験を講座に反映させる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・著名な作家、同世代の作家達の作品を数多く鑑賞する。 ・制作を進めながらより高度な精神と表現技術を求める。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	モチーフは自由
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
1 0	
1 1	
1 2	
1 3	
1 4	
1 5	

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					

授業目的と到達目標
・ おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・ 様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・ 日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・ 新しい画材や未知なる表現の開拓 ・ 年間の制作号数500号の達成 ・ 積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。
授業概要
【対面授業】 ・ 日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・ 絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対しての指導 ・ 流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・ 著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・ 制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品のレベル、クオリティー	70
作品発表と成果	15
制作姿勢	15

教科書			
教科書 1	適宜授業内でプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察①
2	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察②
3	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究①
4	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究②
5	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究③
6	表現、技術、素材についての研究①
7	表現、技術、素材についての研究②
8	表現、技術、素材についての研究③
9	表現、技術、素材についての研究④
10	表現、技術、素材についての研究⑤
11	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）①
12	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）②
13	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）③
14	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）④
15	美術業界について（画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版）

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					

授業目的と到達目標
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数500号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。
授業概要
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対しての指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品のレベル、クオリティー	70
作品発表と成果	15
制作姿勢	15

教科書			
教科書 1	適宜授業内でプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }
特記事項
教員実務経験
日本画家、一般社団法人創画会会員、京都日本画家協会会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察①
2	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての考察②
3	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究①
4	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究②
5	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究③
6	表現、技術、素材についての研究①
7	表現、技術、素材についての研究②
8	表現、技術、素材についての研究③
9	表現、技術、素材についての研究④
10	表現、技術、素材についての研究⑤
11	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）①
12	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）②
13	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）③
14	発表について（額装等、展示、プレゼン、ブランディング、WEBやSNS）④
15	美術業界について（画壇、画商マーケット、アートフェア、美術出版）

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業とオンライン授業の併用で行っていく。 二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画
後 期
1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2回目 自主制作①
3回目 自主制作②
4回目 自主制作③
5回目 自主制作④
6回目 絵画研究①
7回目 自主制作⑤
8回目 自主制作⑥
9回目 自主制作⑦
10回目 絵画研究②
11回目 自主制作⑧
12回目 自主制作⑨
13回目 自主制作⑩
14回目 作家研究発表
15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業とオンライン授業の併用で行っていく。 二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画
後 期
1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2回目 自主制作①
3回目 自主制作②
4回目 自主制作③
5回目 自主制作④
6回目 絵画研究①
7回目 自主制作⑤
8回目 自主制作⑥
9回目 自主制作⑦
10回目 絵画研究②
11回目 自主制作⑧
12回目 自主制作⑨
13回目 自主制作⑩
14回目 作家研究発表
15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					

授業目的と到達目標
明確な主題設定と技術的な課題意識に基づく自主制作活動の定着を図るのが授業目的で、学部時代のレベルからの向上が自覚できるようになることが到達目標である。
授業概要
対面授業とオンライン授業の併用で行っていく。 二コマ続きの実習時間を有効に使って、自主制作活動を主体的に進めていくのが中心となるが、必要に応じて絵画研究の講義や作家研究の発表の機会をゼミ形式で取り入れて、自主制作活動の活性化を図っていく。自己評価の信頼度を上げるために、自主制作作品の学外での発表を課していく。
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

教員は長年にわたり絵画制作と作品発表に取り組むとともに、絵画の制作指導のための絵画研究を幅広くかつ間断なく行っている。

授業計画
後 期
1回目 ガイダンス 自主制作と学外発表計画
2回目 自主制作①
3回目 自主制作②
4回目 自主制作③
5回目 自主制作④
6回目 絵画研究①
7回目 自主制作⑤
8回目 自主制作⑥
9回目 自主制作⑦
10回目 絵画研究②
11回目 自主制作⑧
12回目 自主制作⑨
13回目 自主制作⑩
14回目 作家研究発表
15回目 前期自主制作作品の発表・講評

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験	
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【対面】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【遠隔】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験	
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【対面】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【遠隔】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	いしだ ふみ				
クラス名					

授業目的と到達目標
豊かな感性と優れた表現力をもつ作り手の育成。 作り手としての自身の立ち位置を美術の流れの中でとらえ、主題・構想を決定することが出来ること。 主題・構想に合致した技法を発案、または技術を修得し、表現に生かすことが出来ること。
授業概要
対面を中心に遠隔も数回予定。 教員との対話や参考図書を通して、受講生自身が自らの意図に沿った主題を決定し、その表現の為の技法を複数試みながら主題に合致した方法論を見出し、制作を通してその技術を修得出来るように指導する。
受講上の注意
準備学修としては、道具の手入れ、作品の適切な保存、安全で心地よい制作室の維持を心がけること。 受講上の注意としてはスケッチブック等を持参すること。 また、常に ①意欲的・継続的に制作を行い、作品発表の機会があれば積極的に取り組むこと。 ②展覧会・個展等を積極的に鑑賞すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品	80
制作姿勢・研究心	20

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業の中で案内する		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
教員が版画家としての経験を活かし、構想と技術の両面から受講者をサポートする。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】授業概要説明。主題・構想について協議
2	【対面】表現方法・技法について協議
3	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
4	【遠隔】個別指導
5	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
6	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
7	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
8	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
9	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
10	【遠隔】個別指導
11	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
12	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
13	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
14	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
15	【対面】鑑賞・合評，まとめ
16	【対面】主題・構想について協議
17	【対面】表現方法・技法について協議
18	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
19	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
20	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
21	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
22	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
23	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
24	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
25	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
26	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
27	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
28	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
29	【対面】作品制作。授業開始時に個別指導
30	【対面】鑑賞・合評，まとめ

科目名	絵画研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					

授業目的と到達目標
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数500号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。
授業概要
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対する指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品のレベル、クオリティー	70
作品発表と成果	15
制作姿勢	15

教科書			
教科書 1	適宜授業内でプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }
特記事項
教員実務経験
日本画家、一般社団法人創画会会員、京都日本画家協会会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察
2	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究
3	表現、技術、素材についての研究①
4	表現、技術、素材についての研究②
5	表現、技術、素材についての研究③
6	表現、技術、素材についての研究④
7	表現、技術、素材についての研究⑤
8	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）①
9	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）②
1 0	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）③
1 1	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）④
1 2	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）⑤
1 3	年度末発表に向けた展示計画
1 4	制作の総括、日本画語句テスト
1 5	制作の総括、講評会

科目名	絵画研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	久世 直幸				
クラス名					

授業目的と到達目標
・おおらかで個性豊かな平面絵画の追求 ・様々な体験や知識の集積による制作テーマの深化 ・日本画材を用いた現代的な絵画表現の研究 ・新しい画材や未知なる表現の開拓 ・年間の制作号数500号の達成 ・積極的な作品発表、成果の獲得 以上を目標とした実技演習・制作指導・講義・ミーティングを行います。
授業概要
【対面授業】 ・日本画の伝統的表現や技術を確認しながらも、現代に相応しい絵画表現の獲得を目指した実技授業や講義 ・絵画制作の立案、計画、実施、発表といった制作活動全般に対しての指導 ・流行の表現技法や業界の最新情報など様々なコンテンツの提供 教員の画家としての経験を活かし、制作への意欲獲得の方法や準備、研究、実制作から発表、プロデュース、プレゼンまでの知識やスキルを、総合的に指導します。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・著名作家や同世代の作家の作品を鑑賞する機会を持つ。 ・制作や授業テーマに対する積極的な発言の用意を行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品のレベル、クオリティー	70
作品発表と成果	15
制作姿勢	15

教科書			
教科書 1	適宜授業内でプリントを配布します。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
久世直幸の実務経験について {久世直幸オフィシャルサイト, https://kuzenaoyuki.com } {一般社団法人 創画会, https://www.sogakai.or.jp }
特記事項
教員実務経験
日本画家、一般社団法人創画会会員、京都日本画家協会会員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	年間の制作計画、発表、制作テーマの研究方法についての再考察
2	取材（テーマ、モチーフ、手法）の研究
3	表現、技術、素材についての研究①
4	表現、技術、素材についての研究②
5	表現、技術、素材についての研究③
6	表現、技術、素材についての研究④
7	表現、技術、素材についての研究⑤
8	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）①
9	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）②
10	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）③
11	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）④
12	日本画材料についての再考（和紙、岩絵の具、染料、箔）⑤
13	終了制作発表（口頭試問）に向けた展示計画
14	制作の総括、日本画語句テスト
15	制作の総括、講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
研究テーマの制作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。
授業概要
対面授業 研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
制作作品	50
作品制作姿勢	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作に従事・公益社団法人日本工芸会金工部会副部会長・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	対面授業 ガイダンス
2	対面授業 各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定
3	対面授業 各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定
4	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
5	対面授業 研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。
6	対面授業 研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。
7	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
8	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術のの研究及び修練。
9	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
10	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
11	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
12	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
研究テーマの制作に対し、自主性に重きをおき表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。
授業概要
対面授業 研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品	50
作品制作姿勢	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2	黄金友情（金工のものがたり）		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作に従事、大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	対面授業 ガイダンス
2	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
3	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
4	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
5	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
6	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
7	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
8	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
9	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
10	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
11	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
12	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
13	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
14	対面授業 各自の研究テーマについての考察を踏まえての研究目標の設定
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
研究テーマの制作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。
授業概要
対面授業 研究テーマに沿って素材、表現方法の研究及び研修。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作に支障の無い範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	対面授業 ガイダンス
2	対面授業 各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定。
3	対面授業 各自の研究テーマについての考察、それを踏まえての研究目標の設定。
4	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
5	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
6	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
7	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
8	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
9	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
10	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
11	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
12	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生まれている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品提出	70%
月毎のレポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

小野山和代 布にひそむ表情をひきだす,http://www.pulling.com
特記事項
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。
教員実務経験
染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
3	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
4	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
7	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
10	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
13	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。

	制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
1 5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生まれている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品提出	70%
月毎のレポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

小野山和代 布にひそむ表情をひきだす, <http://www.pulling.com>

特記事項

染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。

教員実務経験

染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
3	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
4	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
7	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
10	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
13	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。

	制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
1 5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生まれている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。 前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。 月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品提出	70%
月毎のレポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

小野山和代 布にひそむ表情をひきだす, <http://www.pulling.com>

特記事項

染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。

教員実務経験

染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
3	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
4	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
7	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
10	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。
13	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
14	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。

	制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
1 5	【対面】 各自の研究テーマに従い、研究目標を立てる。 制作目標にむけての準備段階として、広い視野にたった研究を進める。 必要に応じて随時スライドをおこなう。

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっかり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/前期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	前期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	プレゼンテーション
2	プレゼンテーション
3	研究計画の面接指導
4	アイデアスケッチ、マケット制作
5	アイデアスケッチ、マケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	プレゼンテーション
2	プレゼンテーション
3	研究計画の面接指導
4	アイデアスケッチ、マケット制作
5	アイデアスケッチ、マケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	作品に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	プレゼンテーション
2	プレゼンテーション
3	研究計画の面接指導
4	アイデアスケッチ、マケット制作
5	アイデアスケッチ、マケット制作
6	素材研究
7	素材研究
8	作品制作
9	作品制作
10	作品制作
11	作品制作
12	作品制作
13	作品に応じた焼成方法の検討
14	焼成に応じた焼成方法の検討
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
作品制作に対して表現方法や技術面のサポートしながら制作作品に相応しい作品を目指す。
授業概要
対面授業 作品制作の技術指導
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 前期研究テーマによって修得した技術の集大成となる学位作品制作に努める。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品	50
制作姿勢	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作に従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	対面授業 前期に引き続き研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
2	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
3	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
4	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
5	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
6	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
7	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
8	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
9	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
10	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
11	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
12	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
学位作品制作に対して表現や技術面のサポートしながら学位作品に相応しい作品制作を目指す。
授業概要
対面授業 研究テーマに沿った素材、表現方法、技術の研究及び研修。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染防止策を厳守すること。 学外での公募展、各種イベントに研究制作に支障のない範囲で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
制作作品	5 0
作品制作要旨	3 0
制作姿勢	2 0

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	対面授業 作品制作の進捗状況チェック
2	対面授業 作品製作
3	対面授業 作品製作
4	対面授業 作品製作
5	対面授業 作品製作
6	対面授業 作品製作
7	対面授業 作品製作
8	対面授業 作品製作
9	対面授業 作品製作
10	対面授業 作品製作
11	対面授業 作品製作
12	対面授業 作品製作、学位作品制作要旨作成
13	対面授業 作品製作、学位作品製作要旨作成
14	対面授業 作品作成、学位作品製作要旨作成
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	三好 正豊				
クラス名					

授業目的と到達目標
研究テーマの製作に対し、自主性に重きを置き表現方法や技術面のサポートしながら独自性のある作品制作を目指す。
授業概要
対面授業 研究テーマに沿った素材、表現方法の研究及び研修。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
対面授業における新型コロナウイルス感染症感染予防策を厳守すること。 学外の公募展、各種イベントに研究制作の支障のない範囲内で積極的に参加し学外での評価にも挑戦して欲しい。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
制作作品	50
制作姿勢	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	工芸家のための金属ノート		
出版社名	アグネス技術センター	著者名	鹿取一男
参考書名 2	黄金有情		
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
千家十職中川浄益茶道具制作従事・大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	対面授業 前期に引き続き研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
2	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
3	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
4	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
5	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
6	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練
7	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
8	研究テーマに沿った素材、技術の研究及び修練。
9	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
10	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
11	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
12	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
13	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
14	対面授業 研究テーマに沿って素材、技術の研究及び修練。
15	対面授業 合評

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品提出	70%
レポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす, http://www.pulling.com
特記事項
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。
教員実務経験

染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
4	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
7	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
10	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
13	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
14	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
15	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品提出	70%
レポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす, http://www.pulling.com
特記事項
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。
教員実務経験

染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
4	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
7	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
10	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
13	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作要旨についての指導をおこなう。
14	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作要旨についての指導をおこなう。
15	【対面】 前期の研究内容をふまえて対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	小野山 和代				
クラス名					

授業目的と到達目標
現代染織造形は、素材・技法・プロセスや作家の感性により様々な作品が生みだされている。今までの制作をもとに、さらに独創的な制作スタイルの確立をめざし、プロとしての作品の完成度高めてゆく。
授業概要
対面と遠隔の併用授業、状況により変更あり。 受講生とのミーティングをつねにおこない、報告・連絡・相談・意見交換を随時すすめる。 おもに現代染織の国際動向をとりあげ、時事問題も適時とりあげる。前・後期末に作品提出、合評をおこなう。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
教室での課題のみにとどくのではなく、視野をひろめるために、展覧会観賞や見学、あるいは各種イベントなどに積極的にでかけよう。月一回、美術館・ギャラリー巡りのレポートを提出。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品提出	70%
レポート	30%

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
小野山和代 布にひそむ表情をひきだす, http://www.pulling.com
特記事項
染織家として国内外の展覧会での自らの経験を交えながら現代染織造形の動向を講義し、テキスタイルコンペや個展開催等を目指すような染織作品を指導する。
教員実務経験

染織造形に造詣の深い染織家が指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
2	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
3	【遠隔】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
4	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
5	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
6	【遠隔】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
7	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
8	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
9	【遠隔】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
10	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
11	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 必要に応じて随時スライドをおこなう。
12	【遠隔】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。
13	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
14	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 制作報告書についての指導をおこなう。
15	【対面】 前期の研究内容をふまえ対外的に個展形式で発表できるレベルに作品向上をはかるための指導をおこなう。 後期最終合評。

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/後期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	後期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/後期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	後期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	山野 宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
ガラス工芸作家を目指し、個性ある制作スタイルの確立を目指す。
授業概要
対面授業 教員との討論を通し制作スタイルを模索する。 作品についての論文記述を通し制作スタイルを検証し、シリーズ作品制作を目指す。 制作作品を展覧会場に展示し、講評会、自己反省を通しさらなる作品のレベルアップを目指す。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
制作アイディアスケッチをしっかりと描き、指導教員とのコミュニケーションをしっかりとる。 論文は自宅ですっきり記述してくる事。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験
ガラス工芸作家 ガラス工房経営

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス/後期の作品制作の方向性について個人で話す。
2	個人面談/制作の方向性について。
3	制作コンセプトについての第一回目の文章提出。
4	文章についての討論、校正。
5	個人面談、制作アドバイス
6	個人面談、制作アドバイス
7	制作コンセプトについての第二回目の文章提出。
8	文章についての討論、校正。
9	個人面談、制作アドバイス
10	個人面談、制作アドバイス
11	個人面談、制作アドバイス
12	個人面談、制作アドバイス
13	個人面談、制作アドバイス
14	個人面談、制作アドバイス 作品展示アドバイス
15	後期講評会

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	作品制作の経過報告
2	研究計画の面接指導
3	作品制作
4	作品制作
5	作品制作
6	作品制作
7	作品制作
8	作品焼成
9	作品焼成
10	作品完成への最終工程（仕上げ）
11	作品の展示計画
12	展示の備品制作
13	作品展示
14	自作についてのレクチャー
15	講評

科目名	工芸研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における,やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	作品制作の経過報告
2	研究計画および、制作要旨についての面接指導
3	作品制作
4	作品制作
5	作品制作
6	作品制作
7	作品制作
8	作品焼成
9	作品焼成
10	作品完成への最終工程（仕上げ）
11	作品の展示計画
12	展示の備品制作
13	作品展示
14	自作についてのレクチャー、制作要旨の指導
15	講評、制作要旨の指導

科目名	工芸研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田嶋 悦子				
クラス名					

授業目的と到達目標
陶における、やきものの本質とは何か？陶芸素材のもつ特質や技法の研究を深め、各自の個性豊かな作品表現を目指す。創作者としての意識を高める。
授業概要
対面授業 陶芸における造形作品は、伝統を基盤とした作品や新たな表現の可能性を追求する作品など多様であり、現在は陶芸分野を超える広がりを見せている。 教員と受講生の意見交換を主軸に研究および制作を行う。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
美術館および画廊で開催される展覧会の作品鑑賞。専門分野以外の表現活動へも興味を持ち視野を広げる。コミュニケーションを積極的に行う。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品	80
提出物	20

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
田嶋悦子：陶芸家。現代陶芸作家としての活動や経験を活かした指導を行う。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	作品制作の経過報告
2	研究計画の面接指導
3	作品制作
4	作品制作
5	作品制作
6	作品制作
7	作品制作
8	作品焼成
9	作品焼成
10	作品完成への最終工程
11	作品の展示計画
12	展示の備品制作
13	作品展示
14	自作についてのレクチャー
15	講評

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。
授業概要
対面授業（事情があって遠隔授業になる時は予めUnipaで連絡する。） 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。
受講上の注意
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報			
教科書 1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎
教科書 2	対位法		
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン
教科書 3	管弦楽法		
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭

参考書情報			
参考書名 1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。
教員実務経験
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた

他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。

授業計画

和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。

1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。

2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。

楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。

1. グレゴリオ聖歌
2. モーツァルト
3. ベートーヴェン
4. シューベルト
5. ベルリオーズ
6. メンデルスゾーン
7. ショパン
8. シューマン
9. リスト
10. ワーグナー
11. ヴェルディ
12. フランク
13. ブルックナー
14. ブラームス
15. ビゼー
16. チャイコフスキー
17. ドボルザーク
18. フォーレ
19. リムスキー・コルサコフ
20. マーラー
21. ドビュッシー
22. ラフマニノフ
23. ラヴェル
24. シベリウス
25. スクリャービン
26. ストラヴィンスキー
27. シェーンベルク
28. ウェーベルン、ベルク
29. バルトーク
30. メシアン

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。
授業概要
対面授業（コロナ関係で大学より遠隔授業の指示があった場合のみ、遠隔授業を行う） 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。
受講上の注意
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報			
教科書 1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎
教科書 2	対位法		
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン
教科書 3	管弦楽法		
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭

参考書情報			
参考書名 1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。
教員実務経験
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた

他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。

授業計画

和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。

1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。

2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。

楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。

1. グレゴリオ聖歌
2. モーツァルト
3. ベートーヴェン
4. シューベルト
5. ベルリオーズ
6. メンデルスゾーン
7. ショパン
8. シューマン
9. リスト
10. ワーグナー
11. ヴェルディ
12. フランク
13. ブルックナー
14. ブラームス
15. ビゼー
16. チャイコフスキー
17. ドボルザーク
18. フォーレ
19. リムスキー・コルサコフ
20. マーラー
21. ドビュッシー
22. ラフマニノフ
23. ラヴェル
24. シベリウス
25. スクリャービン
26. ストラヴィンスキー
27. シェーンベルク
28. ウェーベルン、ベルク
29. バルトーク
30. メシアン

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
和声学、対位法、管弦楽法の学びを深めるとともに、ピアノソロの曲から室内楽、管弦楽曲を自らの語法で作曲できるようになることが授業目的であり到達目標である。
授業概要
対面授業（コロナ関係で大学より遠隔授業の指示があった場合のみ、遠隔授業を行う） 作曲の基礎である、和声学、対位法、管弦楽法を学びながら、自らが作曲している曲の参考になる楽曲をアナリゼし、ピアノ曲から管弦楽曲に至るまでの作曲を行う。
受講上の注意
和声学、対位法、管弦楽法、作曲は家での自習実施が必須である。またレッスンで学んだことを復習し作曲に活かすことも非常に重要である。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
和声学	10
対位法	10
管弦楽法	10
楽曲研究	10
作曲	60

教科書情報			
教科書 1	和声理論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
出版社名	音楽乃友社	著者名	池内友次郎
教科書 2	対位法		
出版社名	音楽之友社	著者名	ノエル ギャロン
教科書 3	管弦楽法		
出版社名	音楽之友社	著者名	伊福部昭

参考書情報			
参考書名 1	新しい音楽通論		
出版社名	全音楽譜出版社	著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
授業計画はあくまでも例であって、院生のレベル、作曲している曲によって作曲研究の内容が変わっていく。
教員実務経験
教員は作曲家としてピアノソロの曲から室内楽、合唱曲、管弦楽曲からオペラに至るまで多くの楽曲を作曲してきた

他、長年にわたって東京藝術大学、同附属音楽高校で学生や生徒を教え作曲家として育ててきた実務経験を有している。

授業計画

和声学、対位法、管弦楽法は常に学んでいく。

1年次には、モダンなスタイルのピアノソロの曲を書くのは必須として、室内楽も作曲する。

2年次には、管弦楽曲を書くことを大前提として修士作品を書き上げる。

楽曲研究としては作曲指導に役立つ作曲家の作品を学んでいくことになる。

1. グレゴリオ聖歌
2. モーツァルト
3. ベートーヴェン
4. シューベルト
5. ベルリオーズ
6. メンデルスゾーン
7. ショパン
8. シューマン
9. リスト
10. ワーグナー
11. ヴェルディ
12. フランク
13. ブルックナー
14. ブラームス
15. ビゼー
16. チャイコフスキー
17. ドボルザーク
18. フォーレ
19. リムスキー・コルサコフ
20. マーラー
21. ドビュッシー
22. ラフマニノフ
23. ラヴェル
24. シベリウス
25. スクリャービン
26. ストラヴィンスキー
27. シェーンベルク
28. ウェーベルン、ベルク
29. バルトーク
30. メシアン

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	桧垣 智也				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。
授業概要
作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。
受講上の注意
・ 授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・ 1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・ 学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
最終成果物	50
授業に取り組む姿勢	50

教科書情報			
教科書 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
桧垣智也, http://www.musicircus.net/
特記事項

教員実務経験

電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。

授業計画

本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。

1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2. 制作、論文、発表の指導
3. 制作、論文、発表の指導
4. 制作、論文、発表の指導
5. 制作、論文、発表の指導
6. 制作、論文、発表の指導
7. 制作、論文、発表の指導
8. 制作、論文、発表の指導
9. 制作、論文、発表の指導
10. 制作、論文、発表の指導
11. 制作、論文、発表の指導
12. 制作、論文、発表の指導
13. 制作、論文、発表の指導
14. 制作、論文、発表の指導
15. 制作、論文、発表の指導
16. 夏季休暇中の成果報告
17. 制作、論文、発表の指導
18. 制作、論文、発表の指導
19. 制作、論文、発表の指導
20. 制作、論文、発表の指導
21. 制作、論文、発表の指導
22. 制作、論文、発表の指導
23. 制作、論文、発表の指導
24. 制作、論文、発表の指導
25. 制作、論文、発表の指導
26. 制作、論文、発表の指導
27. 制作、論文、発表の指導
29. 制作、論文、発表の指導
30. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	桧垣 智也				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。
授業概要
作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。
受講上の注意
・ 授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・ 1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・ 学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
最終成果物	50
授業に取り組む姿勢	50

教科書情報			
教科書 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
桧垣智也, http://www.musicircus.net/
特記事項

教員実務経験

電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。

授業計画

本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。

1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2. 制作、論文、発表の指導
3. 制作、論文、発表の指導
4. 制作、論文、発表の指導
5. 制作、論文、発表の指導
6. 制作、論文、発表の指導
7. 制作、論文、発表の指導
8. 制作、論文、発表の指導
9. 制作、論文、発表の指導
10. 制作、論文、発表の指導
11. 制作、論文、発表の指導
12. 制作、論文、発表の指導
13. 制作、論文、発表の指導
14. 制作、論文、発表の指導
15. 制作、論文、発表の指導
16. 夏季休暇中の成果報告
17. 制作、論文、発表の指導
18. 制作、論文、発表の指導
19. 制作、論文、発表の指導
20. 制作、論文、発表の指導
21. 制作、論文、発表の指導
22. 制作、論文、発表の指導
23. 制作、論文、発表の指導
24. 制作、論文、発表の指導
25. 制作、論文、発表の指導
26. 制作、論文、発表の指導
27. 制作、論文、発表の指導
29. 制作、論文、発表の指導
30. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期と同じ
授業概要
前期と同じ
受講上の注意
前期と同じ

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
前期と同じ	前期と同じ

教科書情報			
教科書 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
前期と同じ
教員実務経験
前期と同じ

授業計画
前期と同じ

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期と同じ
授業概要
前期と同じ
受講上の注意
前期と同じ

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
前期と同じ	前期と同じ

教科書情報			
教科書 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
前期と同じ
教員実務経験
前期と同じ

授業計画
前期と同じ

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 裕				
クラス名					

授業目的と到達目標
前期と同じ
授業概要
前期と同じ
受講上の注意
前期と同じ

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
前期と同じ	前期と同じ

教科書情報			
教科書 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	前期と同じ		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
前期と同じ
教員実務経験
前期と同じ

授業計画
前期と同じ

科目名	作曲研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	桧垣 智也				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。
授業概要
作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。
受講上の注意
・ 授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・ 1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・ 学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
最終成果物	50
授業に取り組む姿勢	50

教科書情報			
教科書 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
桧垣智也, http://www.musicircus.net/
特記事項

教員実務経験

電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。

授業計画

本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。

1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談
2. 制作、論文、発表の指導
3. 制作、論文、発表の指導
4. 制作、論文、発表の指導
5. 制作、論文、発表の指導
6. 制作、論文、発表の指導
7. 制作、論文、発表の指導
8. 制作、論文、発表の指導
9. 制作、論文、発表の指導
10. 制作、論文、発表の指導
11. 制作、論文、発表の指導
12. 制作、論文、発表の指導
13. 制作、論文、発表の指導
14. 制作、論文、発表の指導
15. 制作、論文、発表の指導
16. 夏季休暇中の成果報告
17. 制作、論文、発表の指導
18. 制作、論文、発表の指導
19. 制作、論文、発表の指導
20. 制作、論文、発表の指導
21. 制作、論文、発表の指導
22. 制作、論文、発表の指導
23. 制作、論文、発表の指導
24. 制作、論文、発表の指導
25. 制作、論文、発表の指導
26. 制作、論文、発表の指導
27. 制作、論文、発表の指導
29. 制作、論文、発表の指導
30. 制作、論文、発表の指導

科目名	作曲研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	桧垣 智也				
クラス名					

授業目的と到達目標
授業の目的は、修士作品の提出に向けた準備をすることです。修士レベルの高い完成度のオリジナル音楽作品の制作と、質の高い論文の執筆、コンサートや学会での発表ができるようになることを到達目標とします。
授業概要
作品制作と論文、及びそれらの発表のために必要なプロセスのすべてを学びます。授業内容はそれらの指導がメインです。 なお本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととします。
受講上の注意
・ 授業外で作品の制作と論文の執筆をしてください。授業ではその指導をします。 ・ 1年生は大学院コンサートが年度末にあります。 ・ 学内外のコンサート、学会、コンクールに積極的に参加してください。 適切なものを紹介していきます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
最終成果物	50
授業に取り組む姿勢	50

教科書情報			
教科書 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	特になし（授業中に指示します）		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
桧垣智也, http://www.musicircus.net/
特記事項

教員実務経験

電子音響音楽作曲の専門家／研究者が、高いレベルの作品と論文、発表ができるように個別指導します。

授業計画

本授業は、基本的に「対面授業」で行うこととする。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと制作または研究題材に関する相談 2. 制作、論文、発表の指導 3. 制作、論文、発表の指導 4. 制作、論文、発表の指導 5. 制作、論文、発表の指導 6. 制作、論文、発表の指導 7. 制作、論文、発表の指導 8. 制作、論文、発表の指導 9. 制作、論文、発表の指導 10. 制作、論文、発表の指導 11. 制作、論文、発表の指導 12. 制作、論文、発表の指導 13. 制作、論文、発表の指導 14. 制作、論文、発表の指導 15. 制作、論文、発表の指導 16. 夏季休暇中の成果報告 17. 制作、論文、発表の指導 18. 制作、論文、発表の指導 19. 制作、論文、発表の指導 20. 制作、論文、発表の指導 21. 制作、論文、発表の指導 22. 制作、論文、発表の指導 23. 制作、論文、発表の指導 24. 制作、論文、発表の指導 25. 制作、論文、発表の指導 26. 制作、論文、発表の指導 27. 制作、論文、発表の指導 29. 制作、論文、発表の指導 30. 制作、論文、発表の指導 |
|---|

科目名	作曲特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標
古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。また、音響・映像機器、新世代楽器、ITとの関わりについても考察する。洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器(道具)との関わりを実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。 また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、音楽以外の領域の履修者の専門領域との関わりについて考察する。他領域からの音楽文化への眼差しを重視し、あるいは、諸領域への音楽学の応用方法を検討するためのディスカッションの機会を設定する。
授業概要
<対面を原則とし、一部遠隔の併用授業> 前半は日本音楽における歴史的 작품을テーマに、記譜法、楽器と奏法、演奏の場(社会)等の諸側面から特徴を考察する。次に日本の音楽界の現状を扱い、作曲家、演奏家、聴衆等について多角的に検討する。 その後、受講生各自の研究課題に関わり、現代の日本音楽、国際的に様々な音楽種目に用いられる日本楽器の様相、メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げる。 音楽領域に留まるのではなく、領域の受講生の参加を強く求め、テクノロジーと芸術の関わり、ゲーム、アニメ、CG、VRにおける音楽/音響の他、芸術・文化・社会について多角的に議論したい。
受講上の注意
文化的な側面において急速に国際化の進む時代であるからこそ、日本音楽に関して、歴史と音楽の種類、文化的、地域的背景の理解に努めるとともに、日常的に好奇心を高めること。また、ICTやAIの進歩と一般への普及が、音楽界に何をもたらすのかは、それを使う我々の「こころ」の在り方によって決まることを、議論します。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書情報			
教科書 1	適宜プリント配布		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	CDコレクションシリーズ39「地無し尺八の可能性」解説書		
出版社名	浜松：浜松市楽器博物館	著者名	志村哲
参考書名 2	『事典 世界音楽の本』		
出版社名	東京：岩波書店	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名 3	『古管尺八の楽器学』		
出版社名	東京：出版芸術社	著者名	志村哲
参考書名 4	『コンピュータと音楽の世界』		
出版社名	東京：共立出版	著者名	志村哲、他（共著）
参考書名 5	『邦楽ジャーナル』		
出版社名	東京：（有）邦楽ジャーナル	著者名	志村哲、他の記事を参照

参考URL
特記事項
教員実務経験
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士（学術）の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	＜対面授業＞ はじめに：日本の音楽研究における歴史的視点と科学的アプローチの諸領域について
2	＜対面授業＞ 音楽作品上演におけるVR（ヴァーチャル・リアリティ）と真実との関係あるいは、現実的な作品の位置づけについて ～ 作曲家／演奏家はこれからも必要か？ ～
3	「楽器」の名器のコピーを作る試みと創作との関係について
4	各種の3Dプリンタで作成して分かった「名器」の特徴
5	名器の表情
6	名管は語る
7	名器は揺れる
8	名器の味わい
9	AIに尺八を教える
10	Cyber尺八で描く宇宙
11	往年の名人に会いたい
12	古典尺八は空間音楽である
13	地無し尺八はエコロジー
14	地無し尺八の可能性
15	前期の総括とディスカッション
16	後期のはじめに：日本社会における音楽・音楽家と、日本の楽器の現状について
17	今日の日本音楽の特徴1：日本楽器製作者とそれを支える社会
18	今日の日本音楽の特徴2：日本伝統音楽の伝承・教育・継承者について
19	日本音楽のためのDTM(デスクトップ・ミュージック)システム
20	音楽資料の歴史的保存のための情報収集・分析と発信 ～ IT社会のための情報音楽Web博物館の未来 ～
21	受講生各自の研究テーマに則った課題設定1
22	受講生各自の研究テーマに則った課題設定2
23	研究発表とディスカッション（受講生の人数、テーマにより詳細を確定）
24	研究発表とディスカッション（受講生の人数、テーマにより詳細を確定）
25	研究発表とディスカッション（受講生の人数、テーマにより詳細を確定）
26	研究発表とディスカッション（受講生の人数、テーマにより詳細を確定）
27	プレゼンテーションと講評
28	プレゼンテーションと講評
29	未来の予測、あるいは期待（レクチャーとディスカッション）
30	課題の完成、提出と総評

科目名	作曲特殊研究 I	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	志村 哲				
クラス名					

授業目的と到達目標
注：本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、同名の前期開講科目の授業内容も参照してください。 古代から継承される日本の伝統音楽と、今日の日本楽器を用いた種々の作品および、電気・電子技術、コンピュータ等を利用した音楽創作を中心に、音楽創造における多種多様な音楽制作の手法を、日本の伝統技術という枠組みから考察する。また、音響・映像機器、新世代楽器、ITとの関わりについても考察する。洋の東西を問わず、あらゆる楽器において、音楽と楽器(道具)との関わりを実践的に追究するアプローチの方法を学ぶ。 また「美術と音楽」「建築と音楽」「映像と音楽」「文学と音楽」など、音楽以外の領域の履修者の専門領域との関わりについて考察する。他領域からの音楽文化への眼差しを重視し、あるいは、諸領域への音楽学の応用方法を検討するためのディスカッションの機会を設定する。
授業概要
<対面を原則とし、一部遠隔の併用授業> 現代芸術および、近未来芸術の可能性に関し、主に「コンピュータと芸術との関わり」について論じる。 その後、受講生各自の研究課題に関わり、日本の伝統技術、現代の日本の芸術、国際的に様々な作品に用いられる日本楽器の様相、メディア、コンピュータとの結び付き、ポピュラー音楽等から幾つかの事例を取り上げて、その独自性と国際性について考察する。 音楽領域に留まるのではなく、領域の受講生の参加を強く求め、テクノロジーと芸術の関わり、ゲーム、アニメ、CG、VRにおける音楽／音響の他、芸術・文化・社会について多角的に議論したい。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
2020年以降、急速に進むリモート環境／空間における芸術活動、AIとの関わりなどについて、表現形式の拡張と日本文化のもつ地域性／独自性について、日常的に好奇心を持ち続けること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
授業に取り組む姿勢	40
研究発表	30
最終課題	30

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考URL
特記事項
教員実務経験
本科目の参考書の執筆者であり、他にも学術書、レコード解説等を多数執筆している。日本楽器「尺八」の研究で、博士（学術）の学位を取得。また、テクノロジーと日本伝統音楽を融合させるアーティストとして活躍している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	本科目は、前期開講の同名の科目と連続で履修することが求められますので、授業内容は「2021年度 前期」の16～30に、「2020年度 後期」分が連なって記載されています。そこで「2021年度 前期」の内容を参照してください。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	同上
14	同上
15	同上

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。
授業概要
授業は「対面授業」で行います。 具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。
受講上の注意
色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品評価	100

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3
9	オペラの物語と音楽について
1 0	オペラの鑑賞と分析 1
1 1	オペラの鑑賞と分析 2
1 2	オペラの鑑賞と分析 3
1 3	オペラの鑑賞と分析 4
1 4	オペラの鑑賞と分析 5
1 5	オペラの鑑賞と分析 6
1 6	後期自由作曲について
1 7	作品制作、演習と添削
1 8	作品制作、演習と添削
1 9	作品制作、演習と添削
2 0	作品制作、演習と添削
2 1	作品制作、演習と添削
2 2	作品制作、演習と添削
2 3	作品制作、演習と添削
2 4	作品制作、演習と添削
2 5	作品制作、演習と添削
2 6	作品のプレゼンテーション
2 7	作品のプレゼンテーション
2 8	作品のプレゼンテーション
2 9	作品のプレゼンテーション
3 0	1 年のまとめ

科目名	作曲特殊研究Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	田中 久美子				
クラス名					

授業目的と到達目標
古典から現代までの管弦楽曲、オペラなどの分析を通じて、大編成の楽曲の構造を理解し、自らの作曲行為に生かしてゆく。
授業概要
授業は「対面授業」で行います。 具体的な作品を鑑賞・分析し、作品制作を行う。
受講上の注意
色々な形態の音楽作品に常に親しみ、構造を理解するように努め、作曲への意欲を高めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
作品評価	100

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
教員が国内外で多くの作品の楽譜出版、オペラ上演等されている作曲家としての経験を生かして指導します。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	管弦楽作品の鑑賞と分析 1
2	管弦楽作品の鑑賞と分析 2
3	管弦楽作品の鑑賞と分析 3
4	管弦楽作品の鑑賞と分析 4
5	管弦楽作品の鑑賞と分析 5
6	吹奏楽作品の鑑賞と分析 1
7	吹奏楽作品の鑑賞と分析 2
8	吹奏楽作品の鑑賞と分析 3
9	オペラの物語と音楽について
1 0	オペラの鑑賞と分析 1
1 1	オペラの鑑賞と分析 2
1 2	オペラの鑑賞と分析 3
1 3	オペラの鑑賞と分析 4
1 4	オペラの鑑賞と分析 5
1 5	オペラの鑑賞と分析 6
1 6	後期自由作曲について
1 7	作品制作、演習と添削
1 8	作品制作、演習と添削
1 9	作品制作、演習と添削
2 0	作品制作、演習と添削
2 1	作品制作、演習と添削
2 2	作品制作、演習と添削
2 3	作品制作、演習と添削
2 4	作品制作、演習と添削
2 5	作品制作、演習と添削
2 6	作品のプレゼンテーション
2 7	作品のプレゼンテーション
2 8	作品のプレゼンテーション
2 9	作品のプレゼンテーション
3 0	1 年のまとめ

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.
1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。
当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。
その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。
1年目・[後期]
前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.
2年目・[前期]
ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。
2年目・[後期]
一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	彫刻研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.
1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。
当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。
その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。
1年目・[後期]
前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.
2年目・[前期]
ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。
2年目・[後期]
一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	彫刻研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.
1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。
当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。
その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。
1年目・[後期]
前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.
2年目・[前期]
ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。
2年目・[後期]
一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	彫刻研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.

1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。

当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。

その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。

1年目・[後期]

前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.

2年目・[前期]

ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。

2年目・[後期]

一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	彫刻研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.
1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。
当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。
その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。
1年目・[後期]
前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.
2年目・[前期]
ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。
2年目・[後期]
一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	彫刻研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	竹屋 修				
クラス名					

授業目的と到達目標
基礎的要素の制作研究の充実とさらに一歩進んで、広い視野にたった研究を進める事とし、その具体的手法を各自が制作研究を進める過程の中に於いて模索する事を目的とする。
授業概要
対面授業 造形における具象的表現の可能性をテーマとし制作を進める事によりその追求を図るが、技法（手法）としては、モデリングをその主体とする。素材としては各自が自由に選択し、それは複数に及ぶ事とする。尚、モチーフを対象とするにただ観察し写し取る行為が制作活動の中心を為すのでは無く、モチーフと各自（制作者）が対峙し、そこから生まれ出る感性の発露に起点を置き、形態の具現化、具体化に留意し制作を進める事を主眼とする。
受講上の注意
目的意識を持った受講態度を望む。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
提出作品の評価	70
授業に取り組む姿勢	30

教科書情報			
教科書 1	なし。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	なし。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員が彫刻家としての数々の経験を活かし、コンクールや展覧会の出品できるレベルの作品を制作する。

教員実務経験

授業計画

対面

1.
1年目・[前期]制作点数（制作途中も含む）を少なくとも2～4点とし、出来るだけ多くの素材を体験する事を目指す。又、テーマ（主題）に於ける各自の有り方を模索し、各自の制作の指針と成る様努める。
当初の6週程は、コンセプトの明確化とその具体的表現の在り方を中心として制作研究を進める。
その後第7週から第15週の期末に掛けて前週までの研究を踏まえ、目的意識を持った制作の確認の基、創る事の意義の認識及び考察を深める。
1年目・[後期]
前期の課程を踏まえ、更なる熟考を持って制作の進展を図る事を目指す。制作点数については、寸法的に大きな作品を1～2点とする。
2.
2年目・[前期]
ほぼ1年目と同様の内容で制作研究を進める。
2年目・[後期]
一つの成果として修了制作に集中し、その結実を図る。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表を社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。
授業概要
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作についてそのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトへなど社会参加も積極的にすすめる。
受講上の注意
予習：表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習：文献とフィールドワークから問題点や疑問点を解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品制作	60
研究姿勢	40

教科書情報			
教科書 1	授業でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	授業でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

21世紀の写真表現は多岐多様にわたり、その輪郭を捕まえることは容易ではない。そのために、授業のなかでは、研究領域や自らの研究テーマの枠にとらわれない思考を深めるために、様々な教材を提示することを基本として、以下を授業で展開する。1) 知識を増やすように指導。2) 成果物としての作品や小論文などについてディスカッションを深める。3) 作品を社会へ発表するための準備を指導。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。
授業概要
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習：表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習：文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品制作	60%
研究姿勢	40%

教科書			
教科書 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン（振り返り）
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。
授業概要
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
受講上の注意
過去に追求してきたテーマを、今後の作品制作の展開への参考資料となるよう常にポートフォリオの形でまとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
これまでの研究テーマを再考し、修士課程2年間の中で、どのような研究が成果をもたらすのかを考えながら、研鑽努力をする。 そして、その為に必要な資料や参考文献を得る為に、学内外の図書館利用を活発に行う。 写真、映像、ミクストメディア等、写真表現の広域性に注目し、スケール感のある作品制作に挑戦する。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
常にアンテナを張り、展覧会やブック制作等、積極的に行動をすること。修士課程終了制作に向けて個性が表出した作品を目指し、コンペティションへの挑戦も視野に入れながら研究をする。
授業概要
一年次での研究成果を踏まえ、更に構築を重ねること。 日々の撮影は勿論の事、様々な写真展示や美術館鑑賞からアイデアを学び、自身の制作のヒントにする。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
欠席の際は必ず報告すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	今後の研究テーマに関する相談
2	作品制作に関する資料収集
3	作品制作
4	作品制作
5	ギャラリークルージング
6	作品制作（主にプリントワーク）
7	作品制作（プリントワークとbook製作）
8	写真におけるミクストメディアの研究 1
9	写真におけるミクストメディアの研究 2
1 0	ミクストメディア作品制作
1 1	ミクストメディア作品の制作仕上げ
1 2	外出撮影と展覧会視察
1 3	作品制作
1 4	作品制作
1 5	作品制作

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
常にアンテナを張り、展覧会やブック制作等、積極的に行動をすること。修士課程終了制作に向けて個性が表出した作品を目指し、コンペティションへの挑戦も視野に入れながら研究をする。
授業概要
日々の撮影は勿論の事、様々な写真展示や美術館鑑賞からアイデアを学び、自身の制作のヒントにする。授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
欠席の時は必ず連絡すること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）

授業回	授業内容
1	今後の研究テーマに関する相談
2	作品制作に関する資料収集
3	作品制作
4	作品制作
5	ギャラリークルージング
6	作品制作（主にプリントワーク）
7	作品制作（プリントワークとbook製作）
8	写真におけるミクストメディアの研究 1
9	写真におけるミクストメディアの研究 2
1 0	ミクストメディア作品制作
1 1	ミクストメディア作品の制作仕上げ
1 2	外出撮影と展覧会視察
1 3	作品制作
1 4	作品制作
1 5	作品制作

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面 502教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書情報			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能+文楽）から先端デザインへ展開している。

授業計画

授業では、研究テーマに対する調査からスタートします。多くの先行研究や書籍を確認し、研究テーマにまつわる関連事項を広く明らかにしていきます。

一定量の調査分析ができた段階で、仮説を立て、1次デザインを試作します。そのアウトプットに対して、客観的検証を複数のフィルターにかけて行い精度を高めていきます。検証結果が芳しくない場合は、研究テーマの方向性を大きく変えます。学生自身のしたい事と、研究として最適なテーマは異なる事が多く、これに学生自ら気付かせる授業内容としていきます。

年間を通して3回から4回程度、学生自ら立てたテーマでデザインによるアウトプットをさせることで、年度終了時には精度の高い研究テーマと制作物が明らかになってきます。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面 502教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞
 多数、科研費 10 年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能＋文楽）から先端デザインへ展開し
 ている。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面 502教室] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞
 多数、科研費 10 年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能＋文楽）から先端デザインへ展開し
 ている。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。
授業概要
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習：表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習：文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品制作	60%
研究姿勢	40%

教科書			
教科書 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン（振り返り）
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	吉川 直哉				
クラス名					

授業目的と到達目標
文献や先行作家の作品を深く研究し、写真表現の研究と制作発表で社会に問うことを目標とする。個展として研究成果を発表できることが望ましい。
授業概要
対面授業（新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。） 講義と作品制作について、そのディスカッションを中心とするが、フィールドワークや様々なプロジェクトなど社会参加も積極的にすすめる。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
予習：表現者として、研究のために必要な文献を熟読。 復習：文献とフィールドワークから問題点や疑問点を発見し、解決へと導く。 新型コロナウイルス等感染症予防対策として遠隔授業になる場合もある。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
作品制作	60%
研究姿勢	40%

教科書			
教科書 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	授業内でその都度紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	授業概要と研究テーマの確認
2	各自の研究テーマについて、その方法と手段を模索。
3	各自の研究テーマにおける問題点を探る
4	制作計画、研究計画の発表
5	制作計画と研究テーマについて先行作家を探る
6	制作計画と研究テーマについてその参考文献を探る
7	制作計画と研究テーマについてその参考文献から学ぶ
8	制作の経過、研究テーマについて、その中間発表。
9	各自の制作テーマ、研究テーマに沿ったフィールドワークの提案
10	各自の制作テーマ、研究テーマについての課題とその修正
11	作品制作と研究テーマの経過報告
12	ライフライン（振り返り）
13	作品制作の成果とその言語化
14	作品発表とその批評
15	研究テーマの完成と課題について

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	高橋 善丸				
クラス名					

授業目的と到達目標
グラフィックデザインは合目的性のあるアートと言える。それは、目的に対する論理的構築と表現感性の両輪から成り立っているからであり、どちらも不可欠な要素である。加えて、メディア環境の中で成立している以上、メディアが進化することで、その在り方も大きく変化していく。これら時代とリンクし時代を見据えた設計が、豊かな文化をも形成していくという意識を持ってもらいたい。
授業概要
対面授業を基本とするが、都度状況を見て判断。 ビジネス環境ではなく、研究テーマとしての目的は自身の中にあるが、結果としての表現には、発信意図に対してと情報の享受者の理解との合致が必要であるということを、忘れてはいけない。社会をシュミレーションして表現することを超えた、オリジナルな提案がどれだけ出来るかで、研究という名に相応しくなる。 客観性を持った意義あるテーマの開発は、社会と自身の思考と授業の相互交換の中で醸成されていくべきである。
受講上の注意
研究の成成は、お互いのレスポンスにて、クオリティが磨かれる。 一方が粗であれば、着実な進展が望めないのはもちろんである。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
取り組む意識	40
提案の幅と作品	60

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	ここちいい文字		
出版社名	パイインターナショナル	著者名	高橋善丸
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
実務経験：グラフィックデザイナー・アートディレクターとして事務所経営をし、加えて展覧会、コンペ、講演、審査員、著作書籍など様々な経験を生かし包括的指導する。
教員実務経験
kokokumaru.com

授業計画
前期、研究テーマを設定し、リサーチと考察を繰り返す。 （グラフィックデザインは、メディアを超えてプログラムへと領域を拡大している。即ち、高いクオリティ表現を追求することは勿論として、それに計画して設計することの重要性に重心が移行していると言える。前期はこれらの視点を養うことに重点を置く。） 後期、研究テーマの論理的確立をし、シュミレーションで検証。 （自分の視点からの論理立ても、繰り返し実験を積み重ねて検証しなければ、客観性が得られない。ここでは、揺るぎない構築を目指す。） 学内ギャラリーにおいて、中間成果としての発表を行う。

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。
授業概要
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	夏休み中に制作した作品の講評
2	作品のプリント制作
3	作品のbook制作とインデザイン
4	book制作とインデザイン
5	プリント制作とポートフォリオ制作
6	ギャラリークルージング
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作
8	展覧会に向けての構想
9	展覧会場の視察
1 0	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
1 1	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
1 2	展示会場設営
1 3	二年次に向けての制作準備
1 4	二年次に向けての制作準備
1 5	二年次に向けての制作準備

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。
授業概要
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	夏休み中に制作した作品の講評
2	作品のプリント制作
3	作品のbook制作とインデザイン
4	book制作とインデザイン
5	プリント制作とポートフォリオ制作
6	ギャラリークルージング
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作
8	展覧会に向けての構想
9	展覧会場の視察
10	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
11	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
12	展示会場設営
13	修士課程終了作品制作に向けての準備
14	修士課程終了作品制作に向けての準備
15	修士課程終了作品制作に向けての準備

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	織作 峰子				
クラス名					

授業目的と到達目標
1. 社会との関係も含め、様々なプロジェクトへのチャレンジを推進する。 2. 他学科及び他研究者との具体的なテーマにもとづいたコラボレーションをおこない、研究活動のフィールドを広めると共に、他ジャンルとの連携による新しいグローバルイノベーションを生み出す。 3. これまで重ねてきた各自の研究テーマをより明確にし、発表・展開する為の考察を行う。
授業概要
クリエイターとして自己確立と開発に機軸を置いて、芸術の持つ普遍的な喜びや感動をコアに、広域でのARTについて研究する。 個性あるファンデーションを築き上げるための研究・発表のラボ。 授業は対面を基本とするが、緊急事態宣言発布に応じてリモートに切り替える可能性がある。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
今後の作品制作の展開への参考資料となるポートフォリオを常時まとめ上げておくこと。 欠席の時は必ず報告をすること。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	夏休み中に制作した作品の講評
2	作品のプリント制作
3	作品のbook制作とインデザイン
4	book制作とインデザイン
5	プリント制作とポートフォリオ制作
6	ギャラリークルージング
7	ギャラリークルージングのレポートを提出し、余った時間で作品制作
8	展覧会に向けての構想
9	展覧会場の視察
1 0	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
1 1	展覧会作品の制作とポートフォリオの制作
1 2	展示会場設営
1 3	二年次に向けての制作準備
1 4	二年次に向けての制作準備
1 5	二年次に向けての制作準備

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞
 多数、科研費 10 年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能＋文楽）から先端デザインへ展開し
 ている。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞多数、科研費10年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能＋文楽）から先端デザインへ展開している。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	デザイン研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	中川 志信				
クラス名					

授業目的と到達目標
プロダクトデザインは今、テクノロジーの進化とともに大きく変化しています。IoTサービス、シェアリング、ロボティクス、AIデザインと、従来のデザインプロセス自体を変えないと、プロダクトが成立しません。この演習では、新たなデザインプロセスを体系的に学び、かつ普遍的なUXデザインなども復習します。現代社会に必要とされる総合力の体得を到達目標とします。
授業概要
[対面] 卒業研究テーマを思考し、その検証も兼ねて複数の先行研究調査、企画構想、仮説検証のためのプロトタイプ制作などを実践していきます。研究を深め、多くのトライ＆エラーを通して研究テーマを研澄まし、魅力ある成果物になるための授業を進めていきます。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
高度なデザイン領域の考察と研究を、極力わかりやすい事例紹介を通して行います。関連書籍などから知見を得て、授業に参加ください。机上研究のみでなくリアルな実体験研究を加えることを望みます。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
課題提出や授業の取組みなどを総合的に評価します。	100

教科書			
教科書 1	ロボティクスデザイン		
出版社名	美術出版	著者名	中川志信
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

中川は先端デザイン・プロダクトデザインの研究者・デザイナーとして、多様な実績を有している。
 パナソニック社プロダクトデザイナー、グッドデザイン賞多数受賞、国際デザインコンペ銀賞銅賞受賞、他デザイン賞
 多数、科研費 10 年連続採択、ロボティクスデザイン研究に従事し、伝統芸能（能＋文楽）から先端デザインへ展開し
 ている。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	ガイダンス
2	デザイン研究
3	デザイン研究
4	デザイン研究
5	デザイン研究
6	デザイン研究
7	デザイン研究
8	デザイン研究
9	デザイン研究
10	デザイン研究
11	デザイン研究
12	デザイン研究
13	デザイン研究
14	デザイン研究
15	デザイン研究 総括

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名	文学創作研究演習				

授業目的と到達目標
よりよい修士作品を仕上げることを目的、また目標とします。
授業概要
対面と遠隔の併用授業 まずは遠隔ではじめ、状況に応じて対面に切り替えていきます。 書きたいものをどんどん書いてきてください。それと並行して、1年目は文章のトレーニングを行います。いろいろなジャンルのものを書いてみましょう。それはまた、自分の書きたいものや書き方を見直すきっかけにもなるかもしれません。可能であれば取材をして書くということも考えています。
受講上の注意
授業日は変更が出る場合があります。

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）
平常点（受講姿勢、課題に対する取り組み方）	1 0 0

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画

まずは遠隔から始めます。

各回、書いてきたものについて話し合いながら、どうすれば自分の伝えたいことが読む人により伝わるかを考えていきます。私自身も、自分の伝えたいことを人に伝えようと試行錯誤をしています。一緒に作品を作り上げていきましょう。

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名	文学創作研究演習				

授業目的と到達目標
59346 文学創作研究演習に同じ
授業概要
59346 文学創作研究演習に同じ
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
59346 文学創作研究演習に同じ

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名					

授業目的と到達目標
59346 文学創作研究演習に同じ
授業概要
59346 文学創作研究演習に同じ
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
59346 文学創作研究演習に同じ

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名	文学創作研究演習				

授業目的と到達目標
59346 文学創作研究演習に同じ
授業概要
59346 文学創作研究演習に同じ
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
59346 文学創作研究演習に同じ

科目名	文学創作研究演習	年次	2	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名					

授業目的と到達目標
59346 文学創作研究演習に同じ
授業概要
59346 文学創作研究演習に同じ
受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書情報			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画
59346 文学創作研究演習に同じ

科目名	文学創作研究演習	年次	1	単位数	4
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	有吉 玉青				
クラス名					

授業目的と到達目標
59346 文学創作研究演習に同じ
授業概要
59346 文学創作研究演習に同じ
準備学修(予習・復習)・受講上の注意

成績評価方法・基準	
種別	割合（％）

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	59346 文学創作研究演習に同じ

2	59346 文学創作研究演習に同じ
3	59346 文学創作研究演習に同じ
4	59346 文学創作研究演習に同じ
5	59346 文学創作研究演習に同じ
6	59346 文学創作研究演習に同じ
7	59346 文学創作研究演習に同じ
8	59346 文学創作研究演習に同じ
9	59346 文学創作研究演習に同じ
1 0	59346 文学創作研究演習に同じ
1 1	59346 文学創作研究演習に同じ
1 2	59346 文学創作研究演習に同じ
1 3	59346 文学創作研究演習に同じ
1 4	59346 文学創作研究演習に同じ
1 5	59346 文学創作研究演習に同じ